

茨城大学同窓会連合会会報

2023.3
第17号

小平記念ホール(日立キャンパス)

関係者が元気になれる同窓会を目指して

茨城大学同窓会連合会
会長 杉田 龍二

昨年（令和4年）11月から同窓会連合会会長を仰せつかっております杉田と申します。昭和49（1974）年に茨城大学工学部を卒業しました。

昭和51年（1976）年に東北大学大学院を修了してパナソニックで勤務した後、平成9（1997）年に茨城大学工学部に転職し平成29（2017）年にリタイアしました。平成30（2018）年から多賀工業会（茨城大学日立キャンパスの工学系同窓会）会長を務めております。

コロナ禍は同窓会活動にも大きな影響を及ぼしましたが、今後、この3年間に得られた知見を参考にしつつ、変更すべき点は変更して、発展していくことが肝要と考えております。同窓会は学生支援をはじめとして諸々の活動を行っております。以下に、幾つかの具体例を紹介いたします。

学生・大学支援としまして、海外派遣学生旅費支援金の一部を寄附、国際会議参加登録料支援、学園祭支援、優れた大学卒業者及び大学院修了者表彰、学生の自主的活動への助成等を実施して参りました。また、同窓会活動への若手会員の参加を促す取組として、卒業生による学生への就職及び職場説明会の開催、同窓会の様々な活動に参加する際の支援等を行っております。年1回発行している同窓会会報につきましては、卒業生はもちろんのこと、在学生やその保護者の皆様にとっても興味が持てるような記事を掲載すべく編集しております。同窓会会費の支払いにご理解頂きました新入生とその保護者の方々に感謝申し上げますとともに、これからも皆様が元気になれるような活動を強化していく所存です。

創立75周年、創基150周年の先に向かって

茨城大学
学長 太田 寛行

茨城大学は、来年、創立75周年、さらに最も古いルーツ校である拡充師範学校の創設から数えて創基150周年という節目を迎えます。その先の大学と社会の姿を考えて、今年は以下のような3つの重点的な取組を進めていくことを教職員と共有しています。

1つ目は、エネルギー問題解決への貢献です。カーボンリサイクルの技術開発を進め、国際的な教育研究や社会実装の拠点を整備し、企業や自治体の方々と連携して、研究を大きく進展させていきます。2つ目は、人文社会科学部、工学部、農学部が連携して、社会変化を的確に実感し、社会現場で活躍できる人材を育成する新しい教育組織（入学定員40名）の開設です。特色は、3学部横断の連携だけでなく、企業や自治体などで実際に働きながら実践的な知識を身に付ける、いわゆる「コーオプ教育」の導入です。令和6年度からの新入生受入に向けて準備を進めています。3つ目は、国際交流の活動再開です。COVID-19で、対面での活動が制限されていましたが、昨年12月には本学の代表団がインドネシアの6大学を訪問し、新たな交流展開を協議してきました。

今なお続く世界の混乱は収まる気配がありません。直ちに戦争終結を望むことは、世界の大多数の人たちが共有しているはずですが、本学の全教職員は、そのことを信じて、さらに粘り強く、平和を希求する心を持ち続けて、大学業務にあたっていきます。今後とも、同窓生の皆さまのご支援をお願いするとともに、同窓会連合会の発展を祈念しております。

同窓会交流コーナー

文理・人文学部同窓会の近況報告

文理・人文学部同窓会副会長兼幹事長 鈴木 章史

昨年度までコロナ禍により2カ年にわたり中止しておりました総会並びに理事会を、例年であれば、7月に開いておりましたが、初めての試みとして、11月12日（土）に開催しました。これは、茨苑祭とホームカミングデーに合わせてみてはどうかとの考えから時期を変更したものです。また、会場も人文社会科学部の10番教室とするなど大学や人文社会科学部のご協力を得て、マスク着用や手指消毒など感染防止対策をしながら開催しました。当日の出席者は、このような状況下でしたので50名程度でした。



総会出席者の記念撮影

総会では、令和3年度の事業活動報告及び決算報告、令和4年度の事業計画及び予算についての承認、新年度からの役員及び理事（学年幹事）の選任を行いました。会長職が、10年余にわたり務められた土田惣一氏から大和田一雄氏に交替しました。例年であれば、総会后に懇親会を行っておりましたが、今回は自粛しました。また、令和4年度では、学生支援活動や大学への支援活動を積極的に行うため、支出予算科目に「大学支援事業費」と「学生支援事業費」を設けました。次年度以降、多数の会員が出席できる状況になることを願い、最後に出席者全員で記念撮影を行い、解散いたしました。

教育学部同窓会の近況報告

教育学部同窓会幹事長 齋藤 英敏

教育学部同窓会は幹事会と代議員会を1年ごとに実施しています。今年度は幹事会の年度で、2年ぶりに対面で開催できました。今年度は、外山彬会長、佐藤暎一幹事長が退任されました。両先生、長い間お疲れさまでした。また、会の同意を経て、今年度も予算から教育学部に教員採用試験対策等の費用として100万円を拠出しました。来年度も継続する予定です。現在、同窓会報第55号を「多様性を考える」という特集テーマのもとに編集しており、お届けできると思います。そして、現在同窓会では会のロゴマークを作成しております。すぐにお披露目できると思いますので楽しみにしておいてください。

理学部同窓会の近況報告

理学部同窓会会長 鈴木 忠和

令和4年度の同窓会の活動は、相変わらず続くコロナウィルスによる影響を受けました。

常任幹事会の開催は年4回、無事開催することができましたが、前年度の活動報告と当該年度の活動計画の承認をいただくための幹事会が中止となり、また、第4期（2018～2021年度）の活動報告をし、第5期（2022～2025年度）の活動計画や役員改選の承認をいただく予定だった総会開催の中止を余儀なくされるなどの影響を受けました。さらに京水会、理水会などの支部大会も3年続けて中止になりました。幸いに幹事会、総会は封書による報告、承認を受けることができ、常任幹事会の活動を継続することができています。文書による活動報告にご理解をいただき、ご協力をいただいた幹事の皆様、同窓会会員の皆様に改めてお礼を申し上げます。特に、幹事の方々には、事務局である常任幹事会への協力をお願いしたところ新たに5名の方が常任幹事へ就任していただきました。今後同窓会活動をさらに活性化していくための大きな力になるものと期待しております。

多賀工業会（工学系同窓会）の近況報告

多賀工業会理事 清水 淳

令和4年は総会の年でしたが、長引くコロナ禍で対面開催はままならず、会長をはじめとする役員を郵送による投票で選出せざるを得ませんでした。そのような中でも、3年ぶりに対面で開催された11月5日（土）のこうがく祭では、多賀工業会館において多賀工業会会員による企業（職場）説明懇談会（延べ学生26名、卒業生11名が参加、写真参照）が実施され、これから就職活動を迎える学部生や大学院生へ比較的に若く活躍中の先輩方から、貴重な助言や叱咤激励が贈られる光景が見られました。写真展も併催され、決定的な瞬間や普段見られない光景を切り取った力作を興味深く鑑賞する姿が見られました。これらは、多賀工業会のインスタグラムに掲載されておりますので、ぜひご覧ください。



多賀工業会会員による企業（職場）説明懇談会的一幕

一方、令和3年の後半に新設された多賀工業会「奨学一時金」(国際会議等参加費支援)には、大学院生からの申請が相次いでいます。今度の多賀工業会会報では、その第1号を含めた国際会議参加報告(体験記)が掲載される運びです。ご期待ください。

このように、多賀工業会の活動も、コロナ禍から抜け出す次の一歩を繰り出そうとしております。引き続きご支援のほどよろしく申し上げます。

農学部同窓会の近況報告

農学部同窓会幹事長 小松崎 将一

令和4年度から、本同窓会会長に中村直紀氏が新任されました。中村会長は、「毎年の積み上げにより一人でも多くの会員の皆様の共感を得ながら同窓会活動の発展に向けていい連鎖につながるよう精一杯の努力をしてみたいと考えております」と所感をのべられました。



令和4年度茨城大学農学部同窓会表彰学生表彰式

新しい同窓会活動の一環として、第1回目の茨城大学農学部同窓会表彰学生の表彰式を令和5年1月11日に行いました。表彰式では、学部学生7名、農学研究科学生7名が表彰されました。受賞者の学生からは、「日頃の成果を評価していただき大変うれしい。今後の励みとしたい」と力強い挨拶もいただきました。農学部では宮口右二学部長のもと、コロナ禍の中でもオープンキャンパスや秋耕祭の再開などが今できることを精一杯取り組んでいます。農学部のOB・OGの皆様には、今後ともご支援のほどよろしく申し上げます。

大学トピックス

学生団体応援イベント「Ibaraki University Giving Campaign 2022」を実施

令和4年12月12日から18日にかけて、学生の課外活動等を支援するため、茨城大学公認学生団体を対象とするオンラインチャリティーイベント「Ibaraki University Giving Campaign 2022」が初めて開催されました。

参加した45の学生団体に対し、6,378名もの方々の応援・ご支援がありました。これは、「Giving Campaign 2022」に参加した全国18の国立大学の中で、6番目に多い応援数でした。集まった寄附金は、各学生団体の活動支援に使用されます。



学長と学生の懇談会を実施



令和4年12月14日、「令和4年度 学長と学生の懇談会」が行われました。水戸・日立・阿見の各キャンパスから学生が参加し、学生生活のリアルな現状について学長や理事、副学長などと意見交換を行いました。各学部の学生たちから様々な意見が話題に上がり、学長等からも具体的な対策や課題解決に向けた提案等がなされました。

「茨城大学ホームカミングデー2022」を開催

令和4年11月13日に、「茨城大学ホームカミングデー2022」が茨城大学の主催、同窓会連合会の共催で開催されました。3年ぶりの対面開催となった今回は、感染防止対策の観点から、立食での懇談は取りやめ、参加者全員に農学部で収穫したコシヒカリ等のお土産に加えて軽食を配付する形となりました。会は、太田学長による大学の近況報告から始まり、茨城大学基金の高額寄附者のご紹介の後、学生のサークル活動や留学報告が行われました。また、ホームカミングデー開催に併せて募集された卒業生の学生時代の写真も紹介され、参加者は懐かしさを感じていました。会の最後には茨城大学混声合唱団により事前録音された校歌がキャンパスの映像とともに披露され、盛況のうちに幕を閉じました。



参加者の記念撮影の様子

